



熱中症について

熱中症とは

気温・湿度の高い状況で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温の調節機能がうまく働かなくなったりして起こる症状です。

めまい、立ちくらみ、筋肉痛、頭痛、吐き気、体のだるさ、意識障害、けいれん、高体温 など



熱中症になりやすい要因は

環境

- ・気温が高い
- ・湿度が高い
- ・風が弱い
- ・急に暑くなった など

身体

- ・高齢者、乳幼児
- ・肥満
- ・睡眠不足 など

行動

- ・激しい運動
- ・水分補給がしにくい時
- ・長時間の屋外作業 など

熱中症を予防するために

水分をとりましょう

幼児は、体の水分の割合が体重の65~75%(成人は約60%)で、体重あたりの不感蒸泄が成人より多いのです。こまめに水分を補給しましょう。早めの水分補給が必要です。

運動中の熱中症予防の水分補給として、日本体育協会では0.1~0.2%の塩分(ナトリウム40~80mg/100ml)と2.5~8%の糖質(炭水化物2.5~8g/100ml)を含んだ飲料を推奨しています。

激しい運動や屋外での作業などで大量に汗をかく時は、

水分とともに塩分(ナトリウム)が出てしまうからです。この場合はスポーツドリンクなどから適度に塩分をとるといいです。

- ・長時間流れるような汗をかく時
- ・腕などを水洗いしてからなめるとしょっぱい時

また、糖質を含んだ飲料がいい理由は、腸管での水分吸収を促進するからです。

ただし、塩分の摂りすぎに注意!

汗が少量の場合は約99%が水分なので、じわじわ汗をかく程度なら、通常の食事をしていれば塩分補給は必要ないそうです。日本人は、食事が必要量を上回る塩分を摂りがちだからです。

糖分の摂りすぎにも注意!

市販のスポーツドリンクは、糖分濃度が3~6%前後に調整されているものが多く、これは運動選手が多量に汗をかくような場合の水分・エネルギー補給を目的としているためです。だから、身体活動量が少ない人が多量に飲むとエネルギー過剰となってしまいます。水や氷で薄めて飲むのが適切です。

6%の糖分濃度のスポーツドリンク1本(500ml)には、30gもの糖分!

3g入りの砂糖だと10本分!



休憩をとりましょう

- ・激しい運動をする時は、水分補給のため、15~30分に1回は休憩をとりましょう

睡眠、栄養をとりましょう

- ・熱帯夜でもよく眠れる工夫(氷枕の使用など)をしましょう。
- ・栄養バランスのよい食事をしましょう。朝食をきちんと摂りましょう。



体調に敏感になろう

- ・体調をしっかり把握しましょう。
- ・体調不良の時は無理をしないように。

もし、夏休み中に病気やけがをした場合は、2学期初めに、連絡票を保健室へ提出してください。

切り取り



連絡票

幼稚部 _____ 組 _____ 番 _____ 氏名 _____

- ・症状、病名、けがの種類 ()
- ・期間 (月 日 ~ 月 日)
- ・受診の有無 i. 受診した ii. 受診しなかった
- ・学校生活上、注意する必要があることなど ()